

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじん てっせんかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人 鏡仙会		http://www.tessen.org/
代表者職・氏名	代表理事 観世暁夫		
制作団体所在地	〒 107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道駅
	東京都港区南青山4-21-29		
電話番号	03-3401-2285		
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじん てっせんかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人 鏡仙会		http://www.tessen.org/
代表者職・氏名	代表理事 観世暁夫		
公演団体所在地	〒 107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道駅
	東京都港区南青山4-21-29		
制作団体 設立年月	1918年5月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 観世暁夫(鏡之丞)／理事 浅見慈一 馬野正基 観世淳夫 柴田稔 清水寛二 竹本幹夫 西村高夫 羽深(鶴澤)久 武川芳樹／監事 相原誠 北永久	正会員24人／観世暁夫(鏡之丞)、北浪昭雄、永島忠彦、浅井文義、羽深(鶴澤)久、清水寛二、西村高夫、岡田晴義(麗史)、柴田稔、小野里(小早川)修、泉雅一郎、馬野正基、浅見慈一、観世淳夫、片山清司(九郎右衛門)、大槻文藏、他	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	武川芳樹
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	藤岡美奈子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@tessen.org		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1918年 江戸後期の観世流宗家十五世観世左近の時に分家した、観世鍊之丞家を中心に設立 1925年 鍊仙会第1回公演 1952年 社団法人鍊仙会を設立 1955年 東京青山に鍊仙会舞台落成 1965年 観世華雪七回忌追善別会「檜垣」にて芸術祭賞受賞 1980年 青山研究能(現青山能)第1回公演 1983年 鍊仙会能楽研修所竣工 2003年 鍊仙会八十周年記念能、鍊仙会能楽研修所二十周年記念能 2012年 公益法人認定を受ける 2014年 鍊仙会能楽研修所三十周年記念特別公演 2016年 青山能MIRAI第1回公演 2017年 ふらっと能楽体験@表参道開始</p> <p>広く舞台芸術の視野から能を見直すことで密度の高い舞台を実現し、復曲や新作能にも企画・参加するなど、鍊仙会の現代に生きる演能活動は高い評価を得ている。 現在は九世観世鍊之丞を中心に、年に20回程の主催公演をはじめ、教職員向けの能楽講座「教え方講座」、野外能や企画公演、子供のための能楽教室を随時行うなど、能の発展と普及に尽くしている。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>○学生能狂言鑑賞実績 2001年～ 成城学園高等学校 2001年～ 跡見学園中学校高等学校 2005年～ 東洋大学 2006年～ 三輪田学園高等学校 2006年～ 早稲田高等学校 2011年～ 東京都立国際高等学校 2022年 星野学園</p> <p>○学生能狂言鑑賞と体験実績 2005年～ 横浜市西区内の小学校9校 2006年～ 専修大学松戸中学校 成蹊中学校、浦安市立入船中学校、田園調布学園ほか</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>2000年 ねむの木学園</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人 鏡仙会】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	ようこそ！能楽の世界へ！～能楽で観る鬼退治～
-----	------------------------

企画のねらい	将来の日本の芸術文化の担い手となる子供たちに古典芸術の素晴らしさを伝え、さらに子供たちには能楽に興味を持って実際に能楽堂に足を運んでくれる観客、あるいは能楽師や能楽界を支える人材となってくれることを期待しています。また子供たちにとって世界を知るための入り口でもある学校授業で能楽に触れることは、今後の能楽や古典芸能の発展と普及に大きな役割を果たすと考えられ、それは日本人としてのアイデンティティの強化、日本文化の継承にも繋がる重要な一歩であると考えます。そのため子供たちには比較的理解しやすく、と同時に能狂言の本質をよく捉えた演目を選択し、鑑賞・体験してもらいます。
--------	---

演目概要・演目選択理由	<p>■狂言「柿山伏」 およそ15分 修行から帰る途中の山伏が畑の柿の木に登って柿を食べていると畑主がやってきます。慌てて山伏は木陰に隠れますが、畑主は山伏をこらしめてやろうと思い、そこにいるのは猿か、鳥かとどばけて問いかけます。山伏は慌てて動物の仕草や鳴きまねをして…。 〈選択理由〉柿を盗んだ罪をどうにか隠そうとする姿が笑いを誘う山伏狂言です。柿を食べる仕草や、動物の鳴き声の真似など、思わず真似したくなるような狂言独特の表現が随所に見られ、子供たちの好奇心を刺激します。さらに狂言は登場人物の行動やシチュエーションで笑わせるだけの喜劇ではありません。人間のいい部分も悪い部分も認め、愛し、許そうという人間愛に満ちた演劇です。その本質を是非味わってください。またこの狂言は教科書にも度々取り上げられており、馴染み深い演目でもあります。</p> <p>■能「土蜘蛛」 およそ25分(省略箇所あり) 原因不明の病で床に伏している屈強な武士、源頼光のもとに怪しげな僧が現れます。驚く頼光に病の原因は自分であると僧は告げ、土蜘蛛の正体を現すと蜘蛛の糸を吐きかけて逃げ去ります。頼光の家来がそのあとを追いかけて、土蜘蛛と激闘を繰り広げ…。 〈選択理由〉土蜘蛛の巣の大道具や千筋の糸が乱れ飛ぶ舞台は圧巻で、迫力のある演出が人気の曲です。「土蜘蛛」は切能と呼ばれる、活劇のような一曲で、終曲まで視覚を楽しませる演出が散りばめられており、能の洗練された工夫が多く見られます。また、妖怪としての「土蜘蛛」は絵巻物や浮世絵、歌舞伎、そして現代においては漫画、アニメ、ゲームなどにおいても多く題材を取られ、ご存知の子供たちも多いかもしれません。能での描かれ方と他の文芸作品で扱われる土蜘蛛を比較して鑑賞することもまた、子供たちの想像力・感受性をかき立て、鑑賞能力の向上に繋げることが出来ると思います。</p>
-------------	---

児童・生徒の参加又は体験の形態	プログラムの「能の話を語ってみよう」の部分で、ワークショップで稽古をした能の終演部に語り「附祝言」をおさらいします。ワークショップに参加していない学年も含め、全員で話を学び、能鑑賞の際には語で参加します。能楽師との共演は希望により人数の限定も可能です。
-----------------	--

児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	鑑賞者全員
		鑑賞人数目安	500名程度

本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>狂言「柿山伏」／作者不明。『今昔物語集』巻二〇「天狗現仏坐木末語」等の説話を背景にして本曲が作られたとする説もある。 能「土蜘蛛」／作者不明。『平家物語』、『太平記』「剣の巻」等に見える源氏名剣説話を素材とする。</p> <p>【プログラム構成】 オープニング演奏／挨拶／狂言「柿山伏」鑑賞、狂言のお話／休憩(応相談)／能の話を語ってみよう／能「土蜘蛛」鑑賞／質問コーナー</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>
-------------------------------	--

出演者	<p>シテ方11名(うちシテ1名、ツレ1名、地謡6名、後見2名、働き1名) ※★は重要無形文化財保持者(総合認定) 観世鏡之丞★、観世淳夫、鶴澤久★、清水寛二★、西村高夫★、柴田稔★、小早川修★、馬野正基★、浅見慈一★、北浪貴裕★、長山桂三★、谷本健吾★、鶴澤光★、安藤貴康、青木健一、小早川泰輝、他</p> <p>ワキ方3名、囃子方4名、狂言方3名</p> <p>観世流シテ方観世鏡之丞家一門(鏡仙会)を中心に、気鋭の能楽師が出演いたします。</p>
-----	--

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>観世鏡之丞 1956年生まれ、1960年初舞台。2002年に九世鏡之丞を襲名。2008年日本芸術院賞、2011年紫綬褒章を受ける。力強さと繊細さを兼ね備えた語と演技には定評があり、東京および京都、大阪でも活躍するほか、海外公演にも多く参加している。公益社団法人鏡仙会代表理事。公益社団法人能楽協会理事。京都造形芸術大学評議員。都立国際高校非常勤講師。</p> <p>観世淳夫 1992年生まれ、1996年初舞台。2002年「千歳」、2010年「石橋」、2012年「乱」、2016年「道成寺」を披く。公演のほかワークショップにも積極的に参加し、国内外で研鑽を積む。若き粗削りの芸に垣間見える気品には鏡之丞家の一跡が感じられる。次期当主として次世代の能界を担う能楽師の一人。</p>
---	--

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 21 名	運搬	積載量: 2 t
	スタッフ: 2 名		車長: 5.5 m
合計: 23 名	台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		0	時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	10時	10時～12時		13時～14時半	応相談	14時半～16時	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	14日	10日	15日	14日
	10月	11月	12月	1月
	15日	13日	15日	17日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

能舞台イメージ (体育館での設置図)
床に直接大道具を置きます。



(図1)



(図2)

「土蜘蛛」上演の様子 シテ: 観世鏡之丞



(図3)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益社団法人 鏡仙会 】

ワークショップのねらい	<p>能の言語・身体表現を通して、学校生活のみならず、世代間を越え、また国際社会でも通用するコミュニケーション能力の向上、あるいは他者と自己との認識力の向上を目的とします。同時に自国の文化に対する理解を自らの身体を通して深めてもらいます。</p> <p>導入の「能についてのお話」では、子供たちそれぞれが主体的にワークショップに参加できるよう、ワークショップのガイダンスとして、若手の能楽師が能の世界へと導きます。</p> <p>メインとなる「型・謡の稽古」では、若手能楽師による的確な指導のもと、能の身体表現を子どもたち全員が稽古します。非日常の動き、声の出し方を稽古する中で、子供たち同士の意見交換も積極的に促し、学び合う空間を作ります。また、鑑賞日の共演に向けて稽古をすることで、緊張感を持って稽古に挑む職業、能楽師を疑似体験してもらいます。</p> <p>「ふりかえり、質問コーナー」では、稽古後の感想や意見を述べ合い、皆で共有します。一度きりの体験で終わることがないように、次回鑑賞に繋がるお話や日常に還元ができるようなお話で締めくくります。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	150名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>①能についてのお話(およそ30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能とは/能の表現/能の約束/曲目様々など ・実際に舞台上で使用している能面等をお見せしながら、視覚的にも分かりやすくお話いたします。 ・能「土蜘蛛」あらすじ <p>能の鑑賞に向けて概要や見どころをお話いたします。</p> <p>②型・謡の稽古(およそ50分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能楽師による仕舞の実演 ・2～3グループに分かれて稽古 <p>鑑賞時の能楽師との共演に向け、附祝言「千秋楽」を担当能楽師と稽古します。 能の基本的な構え、動きを体験します。</p> <p>③ふりかえり、質問コーナー(およそ10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の皆さんからの感想発表 ・「土蜘蛛」に関すること、能楽師に関すること、皆さんの疑問にお答えします。 <p>※休憩は応相談</p> <p style="text-align: right;">(90分程度)</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>お稽古の際は上履きを脱いで靴下で行っていただきます。 稽古で使用する扇はこちらでお持ちします。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

公益社団法人 鏡仙会

】

①本事業に対する取り組み姿勢

情報化、デジタル化が日々進む現代において、インターネットやタブレットなどは、学校生活へも普及し、年齢を問わずに広く利用されるものになりました。インターネットを介して様々な知識や体験の機会が身近になった子供たちの環境において、それでもなお、目の前で行われている芸術活動を鑑賞し、体験するという経験は、何ものにも代え難いものだと思います。また、同じ学び舎で一つの芸術を鑑賞することは、その場限りのものではなく、鑑賞後に友達同士で感想を交わすコミュニケーションの場となり、今後の学習の意欲に繋がる架け橋ともなりえます。

そのような鑑賞に導くためには、まず子供たちの目線に立って能がどのように見えているかを知り、興味を伸ばし、浮かんだ疑問には能楽師として一つの回答を出していく事が重要だと考えます。専門的な用語はできるだけ簡潔にはっきりと示し、物語の内容解釈等については余白を残し、それぞれの考えを尊重したいと思います。

能は伝統芸能として遥か昔の物語を演じていると捉えられがちですが、曲のテーマはシンプルかつ普遍的で、現代を生きる私たちが共感できるものが多くあり、だからこそ能は650年以上、演じ続けられてきました。

大きな声が第一の基本となる謡、地に足をつけて自力で表現する舞、そういった人間の力で行う芸能を、「体験・共演」を通して子供たちに実感してもらい、発見や気づきのある鑑賞に導けるよう尽力します。

また私たち鏡仙会は現代に生きる能を演じ、国内外での公演や役者個人主催の会等を活発に行っています。第一線で活躍する演者が揃う、「鏡仙会の能を観た」という記憶を、鮮烈で良きものとなるよう努め、能楽の発展、子供たちの芸術鑑賞能力向上の一端となるよう尽力します。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

私たちは普段備え付けの能楽堂舞台で演能することがほとんどであり、学校の体育館という空間での上演はイレギュラーなものです。お互いの不安解消のため学校側と連絡を密に取り、打合せを行い、これまで行ってきた学校公演のノウハウも活かし、臨機応変に対応していきたいと思えます。

また、事前の打合せにおいて子供たちの様子や先生方のご要望を伺い、それぞれの学校に寄り添った鑑賞会となるよう、尽力します。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫